

平成22事業年度の実績に関する報告書及び 平成22年度 自己点検・評価書（概要）

○佐賀大学憲章の基本理念に基づき、「佐賀大学中長期ビジョン(2008～2015)」を指針とした第2期中期目標期間の基本的な目標の実現に向け、平成22年度は第2期中期目標期間の初年度として、各年度計画の取組の中で、主に以下のような実績をあげた。

教育

「佐賀大学学士力」に基づく3つの方針の策定

- ◆ 21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民の育成に向けた「佐賀大学学士力」に基づき、3つの方針（「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受け入れの方針」）を策定した。

「全学教育機構」の設置に向けて

- ◆ 教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付けた本学独自の教養教育システムの創出に向けた「全学教育機構」の設置準備を進め、平成23年4月1日に設置することを決定した。

ポートフォリオ支援システムを利用した学習支援・教育改善支援のための取組

- ◆ 平成23年4月1日稼働を目指してポートフォリオ学習支援システムを導入し、ラーニングポートフォリオ及びティーチングポートフォリオを用いた学習支援・教育改善支援の全学的取組に向けた準備を進めた。

学生支援の強化・充実

- ◆ 本学独自の授業料免除「特別枠」（補正予算）を設け、全学免除者82人、半額免除者87人を追加して支援した。
- ◆ メンタルヘルスケアを強化した。
 - ・ メンタルヘルスケアシステム（メンタルスクリーニング調査によるハイリスク者の早期発見→精神科医、臨床心理士による面接→各学部のチューター（担任）にフィードバック）を強化
 - ・ 就職活動や臨床実習に臨む学生を対象としたケアを新たに開始するなど、実施体制を強化

研究

将来性のある基礎的・基盤的研究の支援

- ◆ 研究水準の向上を目指す施策として、
 - ① 各学部・研究科の将来性のある基礎的・基盤的研究支援や若手研究者の育成などを目的とした学部長裁量経費の配分による基盤的研究環境の充実
 - ② 学内公募により新規3件の研究シーズを採択
 - ・ 重度肢体不自由児の自律移動と自律生活に関する研究
 - ・ 酸素プラズマを用いた人と環境に完全無害な次世代型滅菌器の開発
 - ・ アクティブ光空間通信を目的としたネットワークロボット技術の研究
 - ③ 学内公募により、全学的研究プロジェクト「ゲノム研究を基盤とした佐賀健康科学プロジェクト」を新規採択し、研究費及び非常勤博士研究員を措置

評価に基づく地域に密着した研究及び社会に応える研究の推進

- ◆ <佐賀学の推進>
役員会指針に基づき評価要領を定め、「地域学歴史文化研究センター」の評価を実施し、平成27年度までの継続支援を決定した。
- ◆ <低平地沿岸海域研究センターの設置>
「有明海をめぐる環境問題」の新たな研究を展開するために、有明海総合研究プロジェクトと低平地研究センターを統合し、低平地沿岸海域研究センターを平成27年度までの時限を付して新たに設置した。

共同利用・共同研究拠点の推進

- ◆ 海洋エネルギー研究センターは、平成22年度から共同利用・共同研究拠点「海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点」として出発し、人員配置及び予算配分等において重点的に支援した。

社会連携・社会貢献

地域ニーズに応える教育・研究推進のための取組

- ◆ 人文社会科学系学部及び医学系学部のシーズを加えてマップを充実し、ウェブサイト掲載
- ◆ 地域ニーズに適合した本学の教育・研究の取組を推進するために、学長が理事等とともに58の県内企業、5つの商工会議所、1つの業界団体を訪問して各機関の代表者とトップ会談を行い、地域ニーズとのマッチングのための今後の取組課題を抽出
- ◆ 「産学官包括連携協定(6者協定)」に基づき第1期からの継続分14事業に加えて、新たに3つの事業を実施した。
・佐賀偉人伝出版事業 ・日韓海峡圏研究機関相互交流事業 ・佐賀オリジナル清酒の創生

国際化

国際交流の推進

- ◆ 国際パートナーシッププログラムや環黄海教育プログラムなど海外の教育機関と共同した教育プログラム、海外から研究者を招へいしてのシンポジウム開催などにより教員・学生の国際交流を推進した。

「佐賀大学国際戦略構想」の策定と国際交流センター(仮称)の設置に向けた準備

- ◆ 教育研究におけるアジアの知的交流拠点を目指し、「佐賀大学国際戦略構想」として、6つの基本構想と7つの国際戦略を取りまとめた。
- ◆ 構想を推進するため、「国際交流センター(仮称)」の平成23年10月1日設置を目指して準備を進めた。

附属病院

管理会計システムの導入による病院経営の効率化

- ◆ 当院で開発した佐賀大学方式管理会計システム(Sagacious)の導入による病院経営の効率化により、病院収入対前年度比約15%の増収と前年度比約1.9%の医療費の抑制を果たした。

インセンティブ導入による処遇改善

- ◆ 病院経営に貢献する労働を評価し、職員各層のモチベーションを高めるため、平成22年度から医療従事者に対するインセンティブを導入し、処遇改善を図った。

附属学校

幼少・小中接続型教育プログラムの開発

- ◆ 保育課程と小学校低学年の教育課程を連携・接続する素地づくりを推進し、その成果により、「小中接続教育推進に向けた学部教員と附属小・中学校教員のチーム・ピア・エデュケーション(TPE)」による、教員学修支援カリキュラム開発が、平成23年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムに採択された。

地域のモデル校としての実験的・先導的な研究開発

- ◆ 「発達障害・不登校及び子育て支援に関する医学・教育学クロスカリキュラムの開発」事業において、文化教育学部と工学系研究科知能情報システム学専攻との共同による書字困難児対象の漢字学習支援システムの開発に協力するなど、附属学校園を実験的・先導的に活用した。

大学運営

着実な年度計画の実行

- ◆ 本学の業務運営等が円滑かつ効率的に行われるよう着実に年度計画の実行に取り組んだ。
 - 経営協議会委員の意見や監事監査結果等の大学運営への活用
 - 本学の特色を最大限に生かすための学長のイニシアティブによる重点的・効果的な資源配分
 - 中期目標・中期計画実施本部による中期目標・中期計画進捗管理システムの運用
 - 学長を本部長とした「情報戦略本部」の設置による情報セキュリティの強化など